

伝えたいのです あなたに

南中図書館だより
2月号

11月8日の立冬(りっとう)から始まった冬も、いよいよ終わりが近づきました。待ちに待った春が、すぐそこまで来ていますね。

国立天文台のHPによると、今年(2024年)の節分は、2月3日だそうです。こう聞くと、「え?? 節分って、いつも2月3日だよ」と思う人もいるかもしれません。みなさんは憶えていますか? 2021年(令和3年)の節分は、2月2日でした。



「節分」とは、季節を分けるという意味で、もともとは二十四節気で季節の始まりとされる立春、立夏、立秋、立冬の前日のことです。現在では、立春の前日だけを節分と呼びますが、これは旧暦で立春が1年の始まりとされていたため、その前日は特別の日とされたからです。

(ポプラディア情報館「年中行事」ポプラ社 より抜粋)

2021年は、1897年(明治30年)以来、124年ぶりに立春が2月3日となり、節分の日が動きました。ちなみに、1984年(昭和59年)の立春は、2月5日だったので、節分は2月4日になりましたよ。

3年生のみなさんへ



南中図書館では、今年もできるだけ長く、3年生さんへの貸出ができるようにと、3年生さんの「最終返却期限」を、**3月4日(月)午前中まで**とします。

最終返却期限の一週間前、**2月26日(月)まで**は、新たな本を借りることができますよ。どんどん利用してくださいね。



『漂流郵便局』
久保田 沙耶
小学館

いつかどこかの
だれか宛の
手紙を、出したい・読みたい



『写真で伝える仕事』
安田 菜津紀
日本写真企画

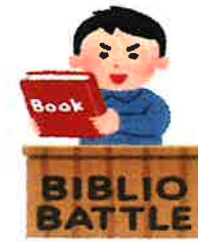
世界をもっと
優しい場所にしていくために



『愛×数学×短歌』
横山 明日希(編)
河出書房新社

君のこと明日好きならば
明後日も
いつか伝える今日の
気持ちを

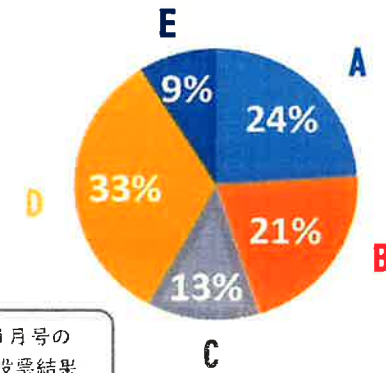
この想いが どうか届きますように...



図書館だより de Bibliobattle ビブリオバトル!

この本を、**「推し」**ます!

みなさん、先月も「図書館だより de ビブリオバトル」に参加してくれて、ありがとうございました!



1月号の投票結果

こちらは、前回の投票結果を、円グラフにまとめたものです。

1月のチャンプ本には、総投票数の3割(33%)を獲得したDの、『**明日の世界が君に優しくありますように**』が選ばれました!

今回も、エントリーした本全てに、それぞれ「推し」投票がありました。南中のみなさんは「本好き」が多くて、とてもうれしいです!(^^)!



※AとBは、同じ本をふたりの図書委員が「推し」しています。あなたが「読んでみたい!」と思った「おすすめ文」の方を選んでください。

僕がこの本を選んだ理由は、今川義元の生き方や考え方が書いてあって、とても興味深いからです。歴史の勉強にもなるので、おすすめします。

(2年生)



書名:『コミック版 日本の歴史 57 今川義元』
作者名:加来 耕三(監修)

幽霊が見える主人公が、同じ能力を持つ人たちと一緒に、妖怪や神様が泊まりにくるホテルで働くお話です。登場人物それぞれの人物像が細かく書かれていて、楽しいコメディだと思ったら、最後は、ほろりと泣ける...そんな小説です。

(1年生)



書名:『出雲のあやかしホテルに就職します』
作者名:硝子町 琉璃

この本には、今川義元の行ったことや、生き様・考え方が書かれています。個人的に僕は、今川義元の考え方・生き方が好きなので、この本はとても興味深いです。歴史が好き、今川義元が好きなおすすめです。

(2年生)



書名:『コミック版 日本の歴史 57 今川義元』
作者名:加来 耕三(監修)

主人公の光夏(ひかりな)が、幼なじみと再会し、学校の思い残りを解決する話です。この物語にててくる千秋(あき)という人物がとても印象に残る感動作です。光夏と千秋が二人で話しているところが好きです。

(1年生)



書名:『君はきっとまだ知らない』
作者名:汐見 夏衛

主人公 三葉(みづは)がある日、神様に「東京のイケメン男子にしてください!」とお願いしたら、夢の中で男の子になっていました。リアル過ぎる夢で、出会うはずのない二人が出会うという、奇跡の物語です。とても感動します。

(1年生)



書名:『君の名は』
作者名:新海 誠

今年度最後の「推し本」は、こちらの4冊です。(「推し文」は5つあります)みなさんの投票を、お待ちしております!

